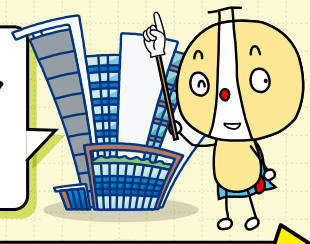
令和7年度　12月4日～10日は「人権週間」です

“世界人権宣言”から生まれた『人権週間』



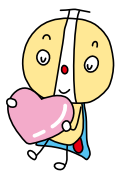
★昭和23(1948)年12月10日、国際連合第3回総会で**世界人権宣言**が採択されました。**世界人権宣言**は、基本的人権尊重の原則を定めたものであり、それ自体が法的拘束力を持つものではありませんが、初めて人権の保障を国際的にうたった画期的なものです。なお、**世界人権宣言**で規定された権利に法的な拘束力を持たせるため、2つの国際人権規約が採択され、その後も個別の人権を保障するためにさまざまな条約が採択されています。

★国際連合は、昭和25(1950)年12月4日の国連総会で、**世界人権宣言**採択日の12月10日を**人権デー**と定め、日本では、**世界人権宣言**が採択された翌年の昭和24(1949)年、毎年12月10日を最終日とする1週間を**「人権週間」**と定め、多くの人に人権を考えてもらう期間としています。

★西成区役所では、人権週間の期間内に**西成区人権啓発推進員**の皆さんと街頭啓発活動を行う他、区役所1階で**人権啓発パネル展**を開催します。

人権とは?

人権とは、誰もが生まれながらにして持っている、人間として幸せに生きていくための権利です。人にはそれぞれ、違い(個性)があります。誰もが平等で幸せに生活できるよう、違いを認め、お互いを尊重することが大切です。



西成区人権啓発推進員

西成区における地域に根ざした人権施策の推進を図るため、大阪市から委託を受け、人権啓発事業の運営や市民に対する人権啓発に関する業務に取り組む市民ボランティアです。

現在27名の方が、会議や研修会へ参加するほか、映画会の運営協力や人権啓発活動等で活動されています。

昨年の人権週間・街頭啓発の様子です。
人権啓発推進員さんが活動する時は、写真のように赤色のジャンパーを着ていますので、お見かけしましたら応援のほど、よろしくお願いいたします。

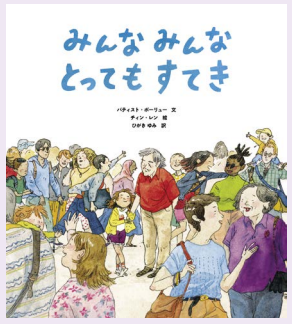
人権コーナー

読書から考える人権

今回は、現役医師でもあるフランスの作家による
「自分にも他者にも優しくなれるメッセージ」が込められた絵本を紹介します。

『みんな みんな とっても すてき』

バティスト・ボーリュー著　チィン・レン絵　ひがき ゆみ訳
ひさかたチャイルド　2025年 ISBN 978-4-86549-340-5



休みの日、女の子は大好きな祖父(じいじ)と祖母(ばあば)の家に遊びに行きます。じいじの顔には、小さい頃にけがをした大きな傷が残っています。ある日、じいじは、傷ができたときの話をしてくれました。
「このきずがあったからこそ、けいけんできたこともたくさんある。じいじのきずあとみたいなものは、だれにだってあるんじゃないかな」
やがて二人は、エッフェル塔に上るため町へ出かけます。かつて医者だったじいじは、道中で昔の患者たちに出会うと、彼らのさまざまな体や心の傷について思い出しながら語り始めました。
「体のまがった人、けがをした人、はだの黒い人や白い人、やせた人や太った人……みんなそれぞれに、その体だったからこその思い出を話してくれた。その思い出を、じいじは"体の物語"ってよんでいるんだ。」
「どんな人にも"体の物語"があってね、人のことを見た目だけでからかうことは、その人の体の物語を知りもしないで、からかうことになるんだよ」
体の物語は、自分の物語、つまりは自分の人生の一部だ。体の物語はだれもが持っている。人の数だけ物語がある。
どんな体の物語も、幸せな終わりに変えていくことができる。そのために大切なのは、自分の時間を大切にすること、自分を愛すること、そして"今何をすれば自分が幸せなのか"と自分に問いかけることだ。
さらに「きみの体の物語をきかせて」「わたしの体の物語をきいてくれる?」と声をかけ合い、互いに分かち合うことで、気持ちが軽くなることもあるんだと、じいじは女の子に教えてくれました。
静かな語り口と柔らかなタッチの絵で個性豊かに登場人物を描いたこの絵本は、「自分の人生の主人公は自分だ」という自己肯定の力強いメッセージと、自分以外のだれかの背景を想像して思いやることの大切さを伝えてくれる一冊です。

図書展示「人権関係図書」展

日　時　11月21日(金)～令和8年1月14日(水)の開館時
場　所　西成図書館にて開催中!
問合せ　西成図書館 ☎06-6659-2346

西成図書館の開館時間などは、こちらから。

問合せ　市民協働課 7階73番窓口 ☎06-6659-9734

広告